

第3回豊橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会
議事録（要旨）

日時：平成27年9月2日（水）午後6時半～8時00分

場所：東館4階 政策会議室

(発言者)	(要旨)
太田委員	・市が行っている取組みのことを、市民はあまり知らない。この豊橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定した後、一部の市民だけでなく、多くの市民に周知されるようにどんどん広報活動をしてほしい。
事務局	・総合戦略は議会への説明の後、広報とよはしやインターネットなどを通じて周知していく。個々の具体的な事業については、担当課が事業を行う仕組みの中でしっかりと周知していく。
佐原会長	・総合戦略や市の取組みを市民へ説明する場所を設けるなど、PDCAサイクルが分かるように見せていく。 ・総合戦略の目標が地方創生なので、地方を担っていく市民に知ってもらわないと意味がない。市民が理解して一緒に行動してくれることにより、成果が2倍にも3倍にもなる。
白井委員	・総合戦略が策定された後、いかに市民に伝えるかである。総合戦略全般を周知するならば、広報とよはしで良いかもしれない。しかし、例えば子育て支援施策ならば保育園の父母会やPTAの総会などで子育て世代に伝えるというように、関心のあるテーマを選んで伝えていくことが、市民に広く周知することにつながる。
佐原会長	・市民とともに考え、実行する仕事が多くなっている。そのため、いかに市民に伝えるかが大切である。
太田委員	・子育て支援に関して言えば、市民は子育てに非常に関心が高いと感じる。校区市民館を訪れたときに、子育てに頑張っている人が多いと感じた。

(発言者)	(要 旨)
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・アクションプランでは、他にはない目玉となる部分を大きく載せて市民にPRしてほしい。
大西委員	<ul style="list-style-type: none"> ・重要業績評価指標（KPI）のうち、捉えどころがない指標が見られる。例えば、若い人が子どもを作りたいと思えるような施策にし、その成果を測れるものにしていかなければいけない。単に統計書等で数字が拾えるものを指標にしているように感じる。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・アクションプランを別冊にしたのは、これからもどんどん見直しを行っていくためである。 ・指標については、毎年計測できるものでなければ検証ができない。ただし、事業と目的が合っていない指標については検討する。 ・現在、豊橋市総合計画の基本計画の見直しも同時に行っている。これに合わせて、まちづくり出前講座を拡大実施するなど、様々な場面で総合戦略の周知を図っていきたい。
太田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・男性の有給休暇の取得状況についてデータはあるのか。積極的に取得するようにしているのか。
林委員	<ul style="list-style-type: none"> ・労働組合からすると、有給休暇を取りやすいように働きかけているが、中小企業ではなかなか厳しい。経営層からは理解が得られるものの、管理職にはなかなか理解してもらえず、年間を通して1、2日休む程度である。
宮川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・会社の規模や職種にもよるが、中小企業では、ある特定の人がいるおかげで会社が回っている場合は、有給休暇を取ることが難しい場合が多い。実際のところ有効な解決策を見つけるのは難しい。
太田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・この地域には、有給休暇を取らない風土がある。これでは、結婚相手を探す余裕もないのではないか。

(発言者)	(要 旨)
	<ul style="list-style-type: none"> ・女性だけでは子どもを育てることができない。このことを理解し、子育て世代にもっと有給休暇を取ってもらう必要がある。
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事を休むことができない事情があるのならば、きちんと子どもを預かることができる体制づくりが必要である。
福井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事を続けながら子どもを育てるに当たって、子どもが病気になった時が一番困る。
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・病児保育ができる施設は、豊橋市内には一つしかない。
佐原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・病児保育に関しては、国の制度が非常に厳しく、そして病児保育を行っても儲からない。 ・豊橋市には障害児を預かる体制がない。
大西委員	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもは突然熱が出る。東京の台東区では、熱が出た子どもを迎えに行くNPOがある。保育所から連絡が来たら、まずは子どもをかかりつけ医のところに連れて行き、診察の結果、それが重い病気の場合は親に連絡を取る。子どもを寝かしておくだけでよい場合は、病児保育所に連れて行き預かってもらう。このように子どもを連れていくだけの仲介を行っており、子育て関連活動のひとつとなっている。
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・豊橋市には、ファミリー・サポート・センターがあるが、病児保育までは責任を持ってない。
佐原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・今回示した総合戦略（素案）では、3大学との連携や高齢者への施策についてあまり書き込みがない。元気なお年寄りが地域づくりに参加する、といったことを書いてもよいと感じる。

事務局	<ul style="list-style-type: none">・豊橋市総合計画の基本計画において、戦略計画の一つとして健康長寿を打ち出していく。総合戦略については、国に習い、結婚、出産、子育てを中心に記載してメリハリをつけている。
吉田委員	<ul style="list-style-type: none">・社会福祉協議会や市の福祉担当部局では、各校区でお年寄りの学習会やサークルを作っている。地域によっては、夏休み期間に小学生をサークル等に招く取組みを実施している。地域でお年寄り子どもが交流する場づくりも重要ではないか。・総合戦略の中に具体的な事業名を無理やりでも書き込んだ方が、何をしていくのかが分かりやすくなりアピールにつながる。
吉田委員	<ul style="list-style-type: none">・豊橋市は自給自足ができる地域である。災害などでライフラインが止まっても生きていける。このような安心感も、若い世代への重要なアピールポイントになる。
白井委員	<ul style="list-style-type: none">・豊橋市は断崖絶壁で津波から守られている。このようなこともアピールしていかなければいけない。・東京から大阪まで主要港のうち、三河港が一番安全な港である。そのことを市民は知らない。
大西委員	<ul style="list-style-type: none">・南国市では、津波から逃れるための津波避難タワーを作った。・豊橋市は天然の要塞で守られているという特長があり、そこまでの必要はない。ただし、公式に災害に対して絶対に大丈夫とは言えない。
伊藤委員	<ul style="list-style-type: none">・豊橋市には立派な企業が立地しているが、小中学生や高校生にはあまり知られていない。商工会議所では、企業展をビジネス目的だけでなく、すばらしい企業が市内にあることを市民向けにPRする場にもしたいと考えている。良い企業が市内にあることをPRするような取組みを、総合戦略の中に入れてらどうか。

- | (発言者) | (要 旨) |
|--------|---|
| 村松委員代理 | <ul style="list-style-type: none">・ものづくり博をうまいものフェアと一緒に開催したところ、多くの子どもたちが企業展に訪れ、様々なことを企業の方々に聞いていた。企業としても今までにない目線で見られたことで新たに気づくこともあり、大変よい機会となった。ビジネスマッチングだけでなく、子どもに見せることも大切である。このような取組みは今後も続けていきたい。 |
| 佐原会長 | <ul style="list-style-type: none">・豊橋技術科学大学はものづくり博で出展しているが、せっかくなので、愛知大学や豊橋創造大学も出展したらどうか。大学のPRを行えば、学生が来るきっかけにもなる。 |
| 吉田委員 | <ul style="list-style-type: none">・豊橋創造大学はビジネスプランコンテストを実施しているが、これに合わせて様々なイベントを一緒にやるとよいのではないか。 |
| 村松委員代理 | <ul style="list-style-type: none">・アクションプランで「◎」は交付金申請事業とあるが、「○」は市独自で実施する事業と考えてよいか。また、書き込みから内容が分かりづらい事業もあるが、今回示された総合戦略と同アクションプランのほかに、事業内容が分かる資料編を作る予定があるのか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none">・「◎」は現時点で国へ交付金事業として申請し採択された、あるいは申請中のものであるが、アクションプランに記載している事業の多くは市の裁量で行っている。「○」の事業において、今後の見せ方や狙い、対象の絞り方で交付金の対象になる可能性もあるが、国の制度として既存事業は交付金の対象にはならない。・事業内容が分かりにくいものに関しては工夫をしていく。 |
| 白井委員 | <ul style="list-style-type: none">・豊橋市人口ビジョンと総合戦略の全体像は示されているが、目玉になる事業が分かるようにし、PRしていく必要がある。おそらく基本目標から具体的施策までは、全国でほとんど違いがないのではないか。 |

-
- | | |
|------|---|
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none">・目玉となる事業が伝わるように工夫してPRしていく。 |
| 佐藤委員 | <ul style="list-style-type: none">・大学連携調査研究費補助金で、地方創生に係る研究枠を設定する方法が考えられる。市が補助金を出して大学が研究を進めている地域は、意外と他にない。3大学でも、子育てや健康をテーマにした研究を行っている。・市立高校に関する事業は記載があるが、県立高校や私立高校との連携について書き込むことは難しいのか。3大学は県立高校とのパイプがある。高大連携の仕組みを活用していくことも考えられる。・伊豆の方から豊根村の芝桜を見に来て、名古屋方面に抜ける広域観光ルートがある。豊根村としては、蒲郡市や豊川市、豊橋市と手を組んで、芝桜を見に訪れる観光ルートを設定したいと考えている。そこまで踏み込んで書くことも必要と感じる。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none">・大学連携調査研究費補助金では早速、地方創生枠を考えていきたい。・今年度は、3大学の学生にアンケート調査を実施する予定である。それと合わせて、高校の進路指導の先生に実情をうかがいたいと考えている。・広域観光ルートは東三河広域連合でも検討しているが、アクションプランでも具体的に書き込んでいけるように検討する。 |
| 大西委員 | <ul style="list-style-type: none">・豊橋技術科学大学では、IT、情報通信、ロボット技術を活用した農業の研究に取り組んでおり、人材育成もしている。アクションプランの中で大学との連携を強調するとしたら、アグリビジネス開拓事業などに書き込んでよい。・中心市街地の再開発を進めるのならば、大学生や大学の先生が集まれる場所ができるとよい。・これからは留学生が増えていく。留学生は定職に就けないと母国へ帰っていく。日本で仕事をして、経営の仕方などを学んでから国に帰りたいという希望を持った留学生も多い。そのような人たちが豊橋市で働くことができる環境を作っていけるとよい。 |
| 佐原会長 | <ul style="list-style-type: none">・定住を考える外国人への施策といった、国際化の視点が抜けている。 |
-

- | (発言者) | (要 旨) |
|--------|---|
| 宮川委員 | <ul style="list-style-type: none">・アクションプランで、中学生が参加する政策コンテストの記載があるが、青年会議所では今年、日本J Cの活動の一つとして、内閣府の後援をいただいて、地域再興政策コンテストを行っている。教育という意味ならば中学生でも良いが、実効性のある政策として考えた場合、大学生を対象に行えば、我々にはない若い視点での提案があるかもしれない。また、企業を対象に行えば、企業視点による具体的な政策が出てくると考えられる。 |
| 村松委員代理 | <ul style="list-style-type: none">・広域連携でいえば、市から補助金をいただいている東三河広域観光協議会がある。また、ものづくり博は8市町村と連携して開催した。飯田線を活用した企画なども行っており、これらのように実働している事業は記載してほしい。 |
| 吉田委員 | <ul style="list-style-type: none">・総合戦略を見ると、親が子育てしやすい環境を整えるということは見えてくるが、豊橋市として、どのような子どもに育てていきたいかが分かるような記載がほしい。教育としての柱を示していただきたい。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none">・総合計画の基本計画の中で、教育の戦略をしっかりと書き込んでいきたいと考えている。 |
| 白井委員 | <ul style="list-style-type: none">・第2回の会議で話題になった豊橋駅前のことだが、会議の後に改めて駅前を見に行った。30万人の都市にしてはあまりにも寂しいと感じた。 |
| 伊藤委員 | <ul style="list-style-type: none">・大西委員から、大学生がまちなかに集う場所について意見があったが、以前に三遠南信の会議で、名古屋市で行われている「ナゴ校」の3大学版ができないか、と提言したことがある。・学生と社会のつながりを作るには、ある程度の方向性を示してゆるやかな組織を作るなど、大人が支援する必要がある。 |

(発言者)

(要 旨)

佐原会長

- ・「プラット」や「ここにこ」の研修室など、まちなかに集まる場所はある。使っていただいて構わない。

福井委員

- ・ほ場整備事業では、本当は農業振興地域の再編成を考えていただきたい。また、ほ場整備を行う地区を記載されると、その地域に限った事業に見えるため、今後の広がりや望みを感じなくなる。